



Emulsion Ac Marine

エマルジョン技術で社会に貢献する。

環境対応型

ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン等
健康住宅研究会優先取組物質、厚生労働省指針値策定物質
を一切使用しておりません。

塗膜防水露出工法

チルト WP-S

ローラー・ハケ・吹付け施工用

折板・瓦棒屋根の防水
防錆塗装としても使用可能

火気・有機溶剤不使用

安全力

鋼板と強い

接着力

アスファルトで高い

防水力

建物内部の温度上昇を緩和

遮熱力

エマルジョン系防水・注入剤・接着剤製造



成瀬化学株式会社

折板・瓦棒屋根の防水

ナルファルトWP-S

特長

屋根に作用する太陽の輻射を遮断し建物内部の温度上昇を緩和します。
(遮熱仕様の場合)

火気、有機溶剤を一切使用しませんので安全無公害な作業ができます。

一液型の水性エマルジョンですので二液を混合する必要がありません。
混合不良によるトラブルが生じません。

鋼板と強い接着力を発揮します。

ローラー、ハケ、吹付け機械で容易に塗布できます。

防錆塗装の代用として使用できます。



標準施工仕様

改修下地

折板・瓦棒

下地処理

① 高圧水にて表面洗浄を行う

② 前処理

- 瓦棒屋根で通し吊り子のハゼが緩んで口を開けている場合は、別途板金工による手直しを行う。

③ 下地調整

- 金属下地に錆が発生している場合、錆を除去して金属下地を出す。
- 油分・薬品等は除去し、清掃する。

④ 増し張り補強防水

- 通し吊り子のハゼが緩んで漏水している箇所は、不織布とナルファルトWPで防水補強を行う。



施工仕様

珪砂仕様

[NWW-M01-TS]

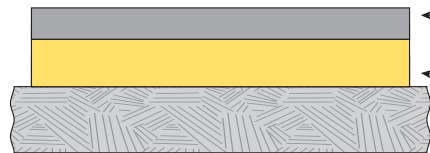


- ナルファルトトップS
ローラー、ハケ 0.5kg/m²×2回
- ナルファルトWVP-S
ローラー、ハケ 0.4kg/m²×3回
吹付け 1.2kg/m²×1回

← 瓦棒・折板

遮熱仕様

[NWW-M01-SP]

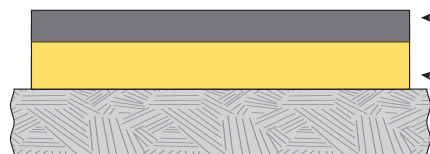


- ナルファルトトップ遮熱P
ローラー、ハケ 0.25kg/m²×2回
吹付け 0.5kg/m²×1回
- ナルファルトWVP-S
ローラー、ハケ 0.4kg/m²×3回
吹付け 1.2kg/m²×1回

← 瓦棒・折板

高耐久仕様

[NWW-M01-HP]



- ナルファルトトップハード
ローラー、ハケ 0.25kg/m²×2回
吹付け 0.5kg/m²×1回
- ナルファルトWVP-S
ローラー、ハケ 0.4kg/m²×3回
吹付け 1.2kg/m²×1回

← 瓦棒・折板

- ※ 金属下地が露出したところは、変成エポキシ（弱溶剤）系の錆止め塗料を塗布して下さい。
- ※ ナルファルトトップS・ナルファルトトップ-遮熱Pは5年に1回塗り換えて下さい。
- ※ 下地金属がアルミの場合、別途ナルファルトプライマーALを使用して下さい。

製品性状

外 観	黒褐色水性エマルジョン
主 成 分	アスファルト・熱可塑性樹脂・合成ゴム
固 形 分	65 ± 3%
比 重	1.2 ± 0.15
粘 度	12,000 cps
P H	9 ± 1
荷 姿	18kg 入りポリペール缶

性能試験

項 目	内 容	試 験 値
引 張 性 能	引張強さ	1.82 N/mm ²
	破断時の伸び率	378 %
接 着 性 能	接着強さ	2.5 N/mm ² (鋼板)
		1.2 N/mm ² (ステンレス)
耐 温 水 性	60℃ 温水浸漬 7日間	異常なし
耐 水 性	水道水浸漬 7日間	異常なし
温冷くり返し性	-20℃、60℃のくり返し 10 サイクル	異常なし

注意事項

- 1 ナルファルト WP-S (以下 WP-S) は、水性のため低温での保管・施工は凍結による機能低下、品質不良を招く恐れがあります。気温 5℃以上で保管・施工を行って下さい。
- 2 施工に際しては、標準施工要領書を良く読んでご理解のうえ施工して下さい。
- 3 下地の錆はしっかりとケレン除去して下さい。金属下地が露出したところには、変成エポキシ系(弱溶剤)の錆止め塗料を塗布して下さい。WP-S を直接塗布すると、水性のため、乾燥硬化過程で表面に錆が浮き上がり、仕上げを損なう恐れがあります。
- 4 下地にシールを打つ場合は標準施工要領書に指定するシール材もしくはシール材メーカーが可塑剤を一切含まないと認めるシール材をご使用下さい。WP-S は、主成分のアスファルトに可塑剤が触れると反応して硬化不良を起こします。ノンブリード型といわれるシール材には微弱の可塑剤を含む商品があります。必ず可塑剤を含まないことを確認して下さい。WP-S の塗膜にシールを打つ場合も同様です。
- 5 欠損部や穴は錆を落としてパテで穴埋めし、WP-S を塗布してカットした補強布で補強張りをして下さい。市販の粘着型の防水テープは接着力が WP-S より小さい為、WP-S が引き剥がす恐れがあります。使用は避けて下さい。
- 6 硬化促進のため、重量比で夏場 0.5% 冬場 1.0% のセメントを混入して下さい。セメントは同量の清水で溶いてノロにして混合し、攪拌器でよく攪拌して下さい。セメントノロを混入した WP-S は乾燥・硬化が速まる為、1 時間以内に使い切して下さい。
- 7 WP-S は、水希釈する(水で薄める)と、機能低下・品質不良(接着力の低下・伸び弾性の低下・乾燥硬化の著しい遅延・膨れの発生・乾燥硬化後の再溶解など)が生じます。希釈(水で薄める)は一切行わないで下さい。WP-S は、一般用のナルファルト WP より粘度を低くして、塗りむらが比較的目立ち難くしていますが、塗りむらが全くなくなることはありません。仕上りの美しさよりも機能を優先してそのままご使用下さい。保護トップ材には骨材が含まれ比較的塗りむらが目立ち難くなります。予めご了承下さい。
- 8 施工は天気の良い日を選び、塗布後に降雨・降雪・結露・凍結の恐れのある場合は施工を避けて下さい。翌日に降雨・降雪凍結の恐れのある場合は、翌朝に十分な乾燥が得られず流出・凍結する恐れがあります。夕方近くの施工を避けて下さい。特に日照の得られない北面や通風の無い個所で乾燥の遅延が予想される場合は、前日の施工見合わせを検討して下さい。
- 9 塗布量が少ないと十分な性能が得られませんので、標準塗布量を厳守して下さい。
- 10 塗布用具は、塗布後直ちに水につけて乾燥硬化を防いで下さい。用具の洗浄は水で行ないます。使用する際には、水につけた塗装用具は水を切って使用して下さい。
- 11 保護トップ材を塗布する前に、WP-S が十分乾燥したことを確認して下さい。指触診断法(指に水滴をつけて WP-S 表面をこすり、再溶解しないことで判定)などをお勧めします。
- 12 乾燥した WP-S の表面に乗る場合は、靴底に WP-S が付着していない靴を履いて下さい。WP-S 同士が接着して塗布した表面を損傷する恐れがあります。
- 13 予期せぬ降雨等によって WP-S が再溶解した場合は、雨上がり後そのまま放置して乾燥硬化を待って下さい。溶解(黒色から茶色にもどる)した WP-S に乗ると、損傷が広がります。十分乾燥硬化した後に、不良箇所に再塗布する手直しを行なって下さい。
- 14 取扱いに当たっては安全データシート(SDS)をご覧ください。

成瀬化学株式会社

営業部	■ 東京本店	〒140-0013	東京都品川区南大井6-17-7	TEL.03(3763)4113代
	■ 名古屋営業所	〒451-0052	愛知県名古屋市中区栄生1-35-20	TEL.052(586)3811代
	■ 大阪営業所	〒530-0047	大阪府大阪市北区西天満4-5-5	TEL.06(6948)8806代
	■ 沖縄出張所	〒900-0015	沖縄県那覇市久茂地1-1-1	TEL.06(6948)8806代
工場		〒519-1107	三重県亀山市関町木崎1703-3	TEL.0595(96)1411代

■ <http://naruphalt.com> E-mail : naruse@net.email.ne.jp